

食環境の観点から、 「健康な食事」をよみとき、多様な活用を考える

- **基調講演 「今、なぜ食環境に注目し、どの方向に変えていく必要があるのか」**
—“日本人の長寿を支える「健康な食事」のあり方に関する検討”への参画を通して考えたこと
講師 武見ゆかり 女子栄養大学教授・食生態学
日本人の長寿を支える「健康な食事」のあり方に関する検討会副座長

- **シンポジウム（基調講演者を交えて）**
発言1 職域における栄養教育と食環境介入から
入山八江 新潟医療福祉大学准教授・公衆栄養学、元新潟市食育・花育センター食育係
発言2 食環境アプローチですすめる“魚食育の教材づくり—宮城からの発信”
平本福子 宮城学院女子大学教授・調理教育学
座長
足立己幸 女子栄養大学名誉教授・名古屋学芸大学名誉教授・食生態学・食教育学
NPO 法人食生態学実践フォーラム理事長

● **日 時** : 2015年5月24日(日)14:00~16:30

● **会 場** : 日本女子大学 新泉山館 JR 山手線目白駅から徒歩約15分/日本女子大学行バス約5分
東京メトロ有楽町線護国寺駅(4番出口)から徒歩約10分
東京メトロ副都心線雑司が谷駅(3番出口)から徒歩約10分

最近、食育基本法の「食」、食育ガイドの「食育の環」、健康日本21(第2次)、「健康な食事」のあり方に関する検討、「和食」文化のユネスコ無形文化遺産登録等、人間の食について、地域レベルの環境とのかかわりで実践や研究が検討されることが多くなりました。一方私たちは食生態学を基礎とする栄養・食教育の目的について「人びとがそれぞれの生活の質(QOL)と環境の質(QOE)のよりより、持続可能な共生をめざして、…(中略)…教育的アプローチと環境的アプローチの統合、さらに環境的アプローチはフードシステムと食情報システムの両側面からの統合が必要である。…(後略)」と捉えてきましたので、「食環境」は実践と研究のキーワードになっています。しかし、食環境とは何か、望ましいか、その実現方法等について十分な検討をしているとは言えません。そこで、冒頭に挙げた全国的な流れの中で、今年はずばり、「食環境」を取り上げることにしました。

演者はそれぞれの課題について豊富な実績を重ね、かつ課題を持ったトップランナーです。

会場からも多様な実践と研究現場からの発言を交わし、実り多いシンポジウムにしたいと思います。

「食生態学—実践と研究」第8号を読み、当日持参で、ぜひご参加ください。

【参加費】 会員・無料、非会員 2,000 円、学生非会員 500 円(授業等で参加の場合は事前にご相談ください)
【申込方法】 申込用紙に記入のうえ、メール又は FAX でお申し込みください。

<主催> NPO 法人 食生態学実践フォーラム
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-16-10 コーポ小野 202
tel & fax: 03-5925-3780
E-mail: forum0314@angel.ocn.ne.jp
<問い合わせ先> 日本女子大学か家政学部家政経済学科 高増迄
tel & fax: 03-5981-3506

NPO 法人 食生態学実践フォーラム

Fax:03-5925-3780

申込み締めきり 5/18(月)

5/24(日) NPO 法人 食生態学実践フォーラム研修会
食環境の観点から、「健康な食事」をよみとき、多様な活用を考える

5/25 NPO 法人 食生態学実践フォーラム研修会(14:00~16:30)に出席します。

賛助会員 法人賛助会員 学生会員 非会員 学生非会員

氏 名(フリガナ)

連絡先住所 〒

TEL

FAX

E-mail